RIPPLE SAILING CLUB
NO. 125

月刊 1993・7・19

RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒238−03
神奈川県横須賀市長井2−11−1
TEL 0468−57−1711

スクールコーチ募集!?

世の中何社かはこの不況とは関係無いようですが、ことこのマリン業界は風速30ノットの大荒れです。
K誌、Y誌のバブルの膨らんでいたときと比べ本の厚さが2／3程度になり、回復はまだかなーといったところが現実です。
そんな中、Y社の葉山マリーナで行っておりましたヨットスクールが今年7月いっぱいで閉鎖される事になりました。
実質経費が月ベースで80万円程掛かりとてもじゃないが！。といったところだそうです。
かつては年間延べ人数で700名を記録したことがある超有名なスクールの閉鎖だけあって、この湘南地区にも少なからずの影響があります。
Y社と言えば現在のディンギーの恐らくすごいシェアを誇る会社であり、ディンギーの先頭に立って歩まなければ成らない指命を背負った会社です。

先日、そのY社の呼掛けで人数が少なくなったとはいえ、新規にヨットを覚えたい人達の、新規の受け皿の件で会議がありました。
結論から申し上げますと、情報誌、専門誌でのマス媒体等での募集広告は例年通り行い、現地でのスクールは現在スクールを行っているところに依託して行うことになりました。
実際には、逗子にあるマリンボックス100が葉山との距離も近いこともあり、ロケーション的にもそんなに違わないし、受け入れ体制が整っている関係で、上記のスポットにお願いすることになりました。
しかし、ハイシーズンになりますとどうしてもオーバーフローしてしまい、その時に限り私達がお手伝いをすることになりました。
そこでなんですが、今度は皆さんにお願いがあります。
当リプルの現在のアルバイト体制はといいますと、山田君、池田君の2人体制ですが、ハイシーズンになりますと通常の仕事に加え、クルーザー有り、リプル独自のスクールが入ってきて、とてもじゃないが現体制では賄いきれないのが現実です。
そこでヨットスクールのコーチを募集致します。
内容は、座学から始め帆走理論、ロープワーク、そして浜に行き艤ながら各部の名称と陸上シュミレーションを行った後、海上での帆走練習となるわけですが、当クラブに入校する生徒さんとはちょっと違っていて、”夏だヨットだ湘南だ！”的な生徒さんだそうですので、一日を楽しく海上で過ごさせてあげてくだされればよろしいと思います。
まーいってみれば体験的にヨットってどんなもんだろうかの人達だそうです。
日当は生徒さんを13，000円で募集致しますが、Y社の募集手数料等引かれての金額11，000円になりますが、この金額で交通費、食事代を含めてのコーチ料でお願い致します。
登録制にいたしますのでやってみたい人は連絡をお待しております。

夏のロングクルージング行ってまいります

夏の恒例になりましたロングクルージングは、黒潮洗う南方伊豆諸島の大島、新島、式根島の3島のクルージングに決定致しました。
参加者7名と共に、会社が終わってからの20日夜集まっていただき、21日未明より24日まで行ってまいります。
参加者の1名を除いては東京湾を出たことが無いクルーなので、コバルトブルーの大海原と火山系特有の島島の間のクルージングは、さぞかし思い出に残るクルージングとなることでしょう。
さて、話は横道にそれますがよく伊豆七島、伊豆七島と皆さん言っておりますが問題を1つお出ししましょうか？。
まず北から有名な島の名前をあげていきますと①大島、②利島、③新島、④式根島、⑤神津島、⑥三宅島、⑦御蔵島、⑧八丈島となり1島多くなってしまいますね。
伊豆八島なんて聞いた事が有りませんが、どれを削れば良いのかどうです、お分かりに成りました？。
そうなんです、クルージングの時皆さんに問題をお出しするんですが知っている人は余りにも少ないのです。
（まー自分もそうだったんですが。）
お答えしますと式根島は新島に属し、伊豆七島と言ったときには入らないのです。この島は1703年の大地震と大津波により新島より分離してしまい、現象面的には新島と離れていますが、行政面では新島に属しているのです。
まーその他にも東京都に属しているのに名前は何故伊豆諸島と呼ぶのか、島民のかつて私の車のように真っ赤に錆びている車のナンバーは似ても似つかない品川なのか、結構ミステリアスなのです。
まー余談になりましたが、今回のクルージングの最初の泊地である46マイル先の大島東南端の波浮港は、かつて火口湖で有ったものが長い年月で海とつながって出来た港であり、停泊しているところから周りを見渡すと正に噴火口の真下にいるんだなーと実感させられ、自然の大きさに驚かされてしまいます。そんな港にまずはもやいをとります。
明けて、翌朝は早朝よりさらに25マイル先の式根島の吹の江を目指します。
ここは港ではなく天然の入江で、この辺りをクルージングするヨットマンにとっては一服の清涼剤的な天然港です。
アンカーリングをして、シュノーケリングなりスイミングなり、また夜の酒のつまみのしったか採りなり、釣りなどをしてここ長浜とはちょっと違った海の遊びを満喫致します。
そして日没前には新島港に入港し、近くの露天風呂に入りながら太平洋に沈む夕日を見ながらビールをあおるんです。
最盛期だと東海汽船で来た若いギャルが至るところでたむろしているんですが、”この満足感、分かるかなーこの娘さん”という気分に浸って下さい。
そして次の日は島内のあちこちに点在するモヤイ像などを見学し、ま たまた露天風呂に入った後、新島を左手に見ながらそして潮に逆らいながら北上して行きます。途中新島の山の山頂から海岸線まで、およそ標高300m、幅数百mにも及ぶ緑が削り取られた斜度45度位の海食崖の壮大な自然のおりなす、緑の木木と荒々しく削り取られた斜面の白のコントラストを見ながらのセーリングです。ここでもまた自然のおりなすスケールの大きさに感動いたします。
世の中での嫌なこと等、みみっちい、みみっちい！。
そして、新島港より30マイル先の大島波浮港に向い、ここでまたもやいをとります。
そして最終日はがっちりと朝食を採った後、相模灘を北上して我がホームポート迄のクルージンになります。
ちょっと参加者の多くの人にはきついと思われますが、疲労より感動の方が多く、きっと生涯に残るクルージングになると確信しています。
そんな訳で行って参りますが、リプル号はいつでも皆さんを南国のパラダイスへお誘いする準備が出来ておりますので、よろしかったらいつでもご相談下さい。
まっ、実際のクルージングの航海記は来月号にご期待を。
PS・・・21日だけどうしてもアルバイトの確保が出来ませんでしたのでこの日だけは申し訳有りませんが臨時休業とさせて頂きます。残りの日は今年のアルバイトの池田君が留守を預かっております。